

JR 東日本と JR 西日本が車両の装置・部品共通化の検討を開始

- 東日本旅客鉄道株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：喜勢陽一、以下「JR 東日本」）と西日本旅客鉄道株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長：長谷川一明、以下「JR 西日本」）は、旅客輸送量や労働生産人口の減少が見込まれる中においても、将来にわたり鉄道輸送事業を維持発展させ、お客さまへ安定的な輸送サービスを提供することを目的として、在来線車両における装置・部品の共通化を目指します。
- 両社で使用する車両の装置・部品を共通化し、調達の容易化や生産性の向上に寄与することで、持続的で安定した輸送サービスを提供します。
- 今後、サステナブルな車両製造に向けて、両社で設計プロセスの効率化、設計技術の向上を目指した交流などを通じて、車両設計分野において会社の垣根を超えて連携を深めます。

1. 両社の連携内容

JR 東日本と JR 西日本は 2024 年 4 月に覚書を締結し、共同で在来線車両の装置・部品共通化の検討を開始しました。今後、以下の取り組みを通じ、効率的でサステナブルな車両製造を目指すことで、より持続的で安定した輸送サービスを提供します。

(1) 車両の装置・部品の共通化について

車両の装置・部品を共通化し、車両メーカー・サプライヤーの製造プロセスの効率化や生産性の向上に寄与することで、サプライチェーンの強靱化を目指します。これにより、効率的な装置・部品の調達が可能となります。

(2) サステナブルな車両製造に向けた交流や意見交換について

両社の設計プロセス効率化、設計技術向上を目指した交流や、本取り組みにご賛同いただける事業者・車両メーカー・サプライヤーの皆さまとの積極的な意見交換を行っていきます。

2. 付 記

JR 東日本と JR 西日本は北陸新幹線 E7 系/W7 系の共同設計、相互直通運転を行っており、同一路線の新幹線を共同で運行しています。2023 年 4 月には覚書を締結し、E7 系/W7 系をベースとした新幹線の自動運転の実現に向けた技術検討も協力して進めています。新幹線ではこのような技術協力を行っていましたが、今回のような在来線における技術的な連携は初めてとなります。



山手線 E235 系



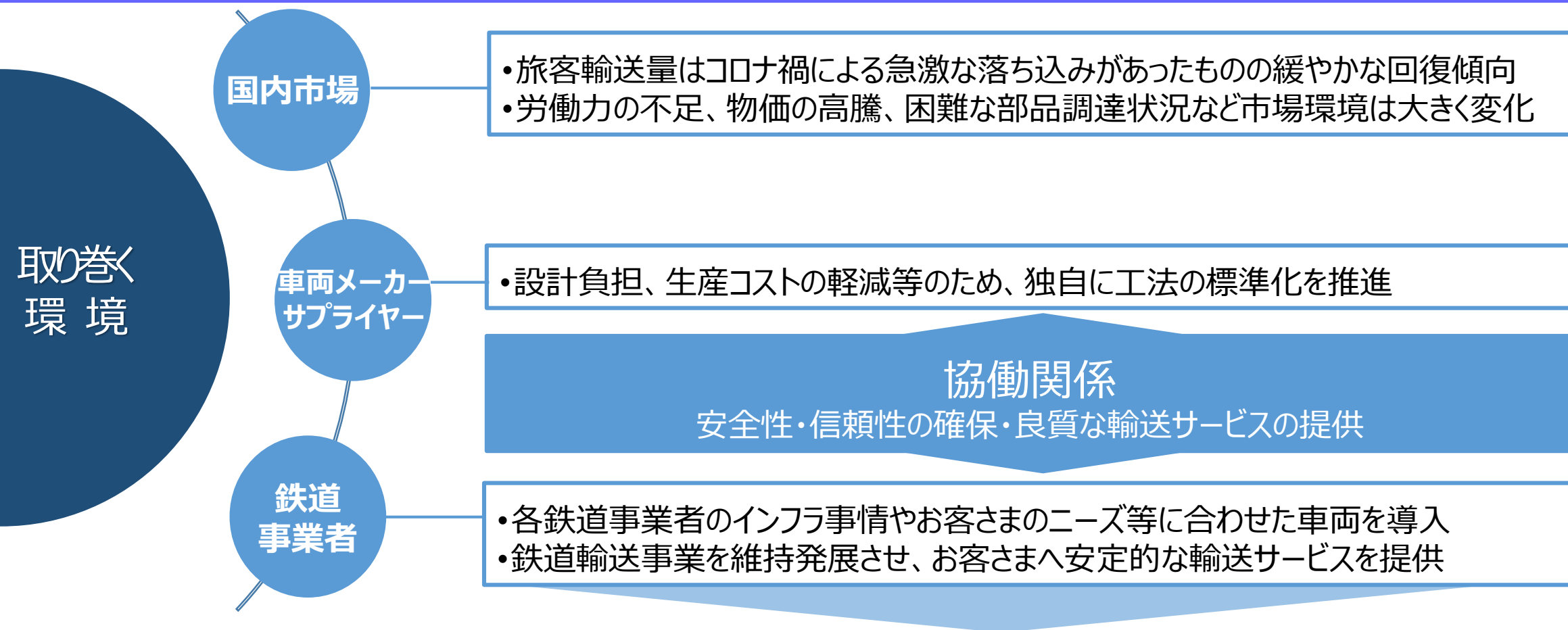
大阪環状線 323 系



～JR東日本とJR西日本が車両の装置・部品共通化の検討を開始～

2024年 7月 5日

装置・部品の共通化 背景と目的



課題

装置・部品調達の容易化・製造における生産性の向上・設計プロセスの効率化

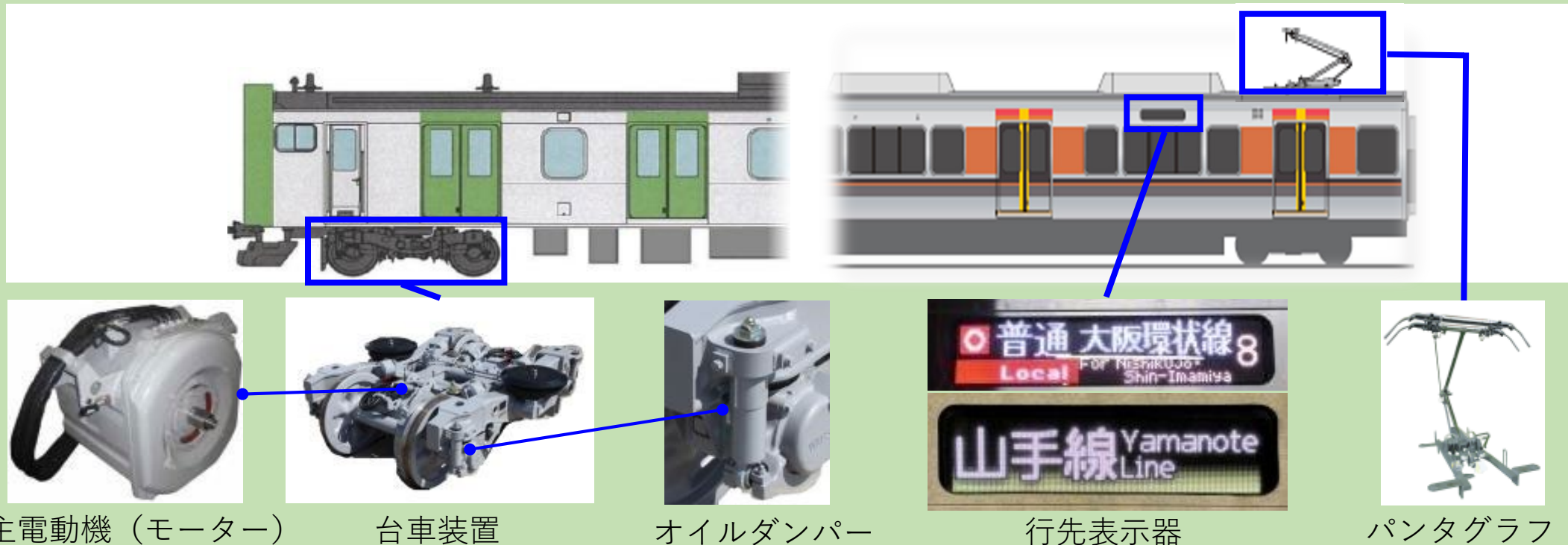
打ち手

事業者の独自性と効率化のバランスに留意した車両装置・部品の共通化

装置・部品の共通化 イメージ

装置 部品

- ・まずは装置・部品から共通化の検討に着手。
例) 主電動機 (モーター)、オイルダンパー、行先表示器、パンタグラフ、など
- ・事業者の独自性と効率化のバランスを見ながら共通化対象部品を拡大。



- ・各鉄道事業者の独自の仕様となるものは今後検討
例) ドア位置・枚数、車体幅・長さ、前頭部形状 (デザイン) など

装置・部品の共通化 今後の展望

